

令和 7 年 度

文京区平和特派員事業

活 動 報 告 書



(ひめゆりの塔前にて)

文京区教育委員会

文京区平和特派員事業活動報告書

目次

あいさつ	1
1 参加校一覧及び引率者名簿.....	2
2 事業日程	3
(1) 事前研修日程.....	3
(2) 実施日程	4
3 体験記録	11
(1) 実施期間中の記録.....	11
(2) 学校での振り返りの記録.....	35
4 「文京区平和特派員事業」代表生徒アンケートの結果.....	40
5 あとがき	44

あいさつ

令和7年は、戦後80年の節目を迎えた年でありました。戦争を直接知る世代が年々減少し、戦争に関する記憶が薄れつつある一方で、世界各地では今なお紛争が続いており、日々の報道等を通じて社会情勢の不安定さを強く感じるものが少なくありません。

このような時代だからこそ、戦争を自分たちの生活とは無関係な事象として捉えるのではなく、同じ世界で起きている現実として受け止め、世界平和を希求する心を育むことは、極めて重要であると感じております。

文京区は、令和6年10月に「文京区とうるま市との相互協力に関する協定」を締結いたしました。そして、同年度より、区立中学校全10校から各校2名ずつ、計20名の代表生徒を「平和特派員」として沖縄に派遣しております。今年度もうるま市の皆様をはじめとした多くの方々のご協力のもと、本事業を実施できましたこと感謝申し上げます。

代表生徒には、昨年度派遣された生徒たちの学習発表を聴講し本事業への参加を希望した、高い学習意欲をもつ生徒たちが選出されました。派遣された生徒たちは、地上戦が繰り広げられた沖縄を実際に訪れ、後世に平和の大切さを伝えるための学習施設を訪問したり、現地で暮らす同年代の子どもたちとの交流を深めたりするなど、実感を伴う学びを積む貴重な機会を得ました。これらの経験は、これからの世界平和を担う子どもたちにとってかけがえのないものになったのではないかと思います。

本活動報告書を通じて、生徒たちが自らの体験を通して得た学びや思い、考えを共有することで、報告書をご覧になる皆様にも、改めて平和について考える契機となれば幸いです。

令和8年1月

文京区教育委員会教育長
丹羽 恵玲奈

1 参加校一覧及び引率者名簿

No.	学校名
1	第一中学校
2	第三中学校
3	第六中学校
4	第八中学校
5	第九中学校
6	第十中学校
7	文林中学校
8	茗台中学校
9	本郷台中学校
10	音羽中学校

引率者	
第十中学校長	南 英昭
第十中学校主幹教諭	宮下 淳
第十中学校教諭	橋本 奈菜
第六中学校主幹教諭	近藤 梢
教育施策推進担当課長	藤咲 秀修
教育指導課指導主事	上野 義博
教育指導課事務主査	道正 光紀
教育指導課事務担当	久保 茜
教育指導課事務担当	福原 結衣

2 事業日程

(1) 事前研修日程

回	日 時	実施方法
		場 所
0	5月8日(木)までに実施	URLから動画視聴 自宅
1	5月8日(木) 16時～17時頃	オンライン参加 学校または自宅
2	5月13日(火) 16時～17時頃	オンライン参加 学校または自宅
3	5月22日(木) 16時15分から17時15分頃	対面実施 文京区民センター3C会議室
4	6月9日(木) 16時～17時頃	オンライン参加 学校または自宅
5	7月7日(月) 16時15分から17時15分頃	対面実施 文京区民センター3C会議室
6	7月22日(火) 10時～12時頃	オンライン参加 学校または自宅
7	7月25日(金) 10時～12時頃	対面実施 シビックセンター2104会議室
8	7月29日(火) 10時～12時頃	対面実施 シビックセンター2104会議室

事前学習の様子 (第3回及び第4回)



教育長から平和学習の意義と参加姿勢について説明を受けている様子。真摯な態度で話に耳を傾け、これからの活動への決意を新たにしています。(写真上段)



事前学習では、平和について学ぶとともに平和交流発表会に向けた発表資料の作成をしました。発表の質を上げるために、ペアで積極的に意見を出し合いました。(写真下段)

(2) 実施日程

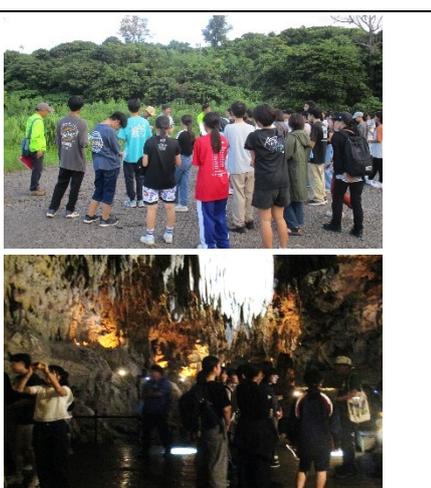
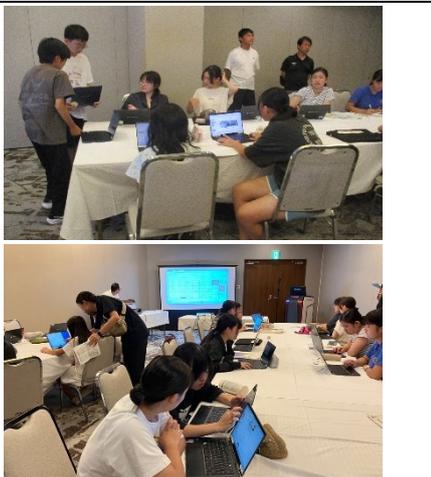
8月5日 (火)

時程	全体の行動	
7 : 4 5	羽田空港に集合	
8 : 4 0	羽田空港発	
1 1 : 2 5	那覇空港着	
1 3 : 0 0	昼食 (琉球の館)	
1 4 : 0 0	ひめゆりの塔 ひめゆり平和祈念史料館 ・千羽鶴奉納	  
1 5 : 4 5	平和祈念史料館 平和祈念公園	

	<ul style="list-style-type: none"> • 平和祈念史料館 見学 • 平和の広場 見学 • 学徒隊の碑 見学 • 平和の礎 見学 	   
18:00	ホテル着	
18:15	夕食 (ホテル内にて)	
19:30	発表準備 リフレクション	

8月6日(水)

時程	全体の行動
6:50	朝食(ホテル内にて)
7:50	ホテル出発
9:20	<p>伊計ビーチ ・海洋体験</p> 
13:00	<p>昼食 (TERUMA)</p> 
14:30	<p>石川多目的ドーム ・闘牛観覧</p> 

<p>16:00</p>	<p>嘉手苅ヌチジヌジガマ</p>	
<p>18:00</p>	<p>ホテル着 夕食（ホテル内にて）</p>	
<p>19:30</p>	<p>発表準備 リフレクション</p>	

8月7日（木）

時程	全体の行動	
7:00	朝食（ホテル内にて）	
8:30	ホテル出発	
8:50	<p>あまわりパーク ・エイサー体験</p>  	  
11:30	<p>あまわりパーク 見学</p>  	
12:15	昼食（弁当）	
15:00	<p>・平和交流発表会</p>   	

		
15:30	・平和に関する講話	
16:00	・勝連城跡 見学	   
17:45	ホテル着 夕食（ホテル内にて）	
19:30	リフレクション	

8月8日（金）

時程	全体の行動	
7:00	朝食（ホテル内にて）	
8:00	ホテル出発	
9:00	<p>糸数アブチラガマ ・千羽鶴奉納</p>   	
11:30	昼食（首里天楼）	
12:10	国際通り（散策）	
14:00	那覇空港着	
15:40	那覇空港発	
18:15	羽田空港着	
18:45	解散	

3 体験記録

(1) 実施期間中の記録

【8月5日（火）】

今日は沖縄初日。飛行機に乗り、まずはひめゆりの塔・ひめゆり平和祈念資料館に向かい、その後平和祈念資料館・平和祈念公園に向かいました。

【ひめゆりの塔・ひめゆり平和祈念資料館】

「ひめゆり」とは、ふたつの学校の生徒会広報誌からつけられたそれらの学校の愛称です。

それらの生徒は、戦争にて兵士たちの世話、けが人の看病などを行い、「ひめゆり学徒隊」と呼ばれました。遠い存在だと思っていた彼女たちなのに、先生たちに「ペンギン」「クラーク・ゲンプル」「坊ちゃん」「腹式呼吸」「ボイボイ」「モンキー」といったあだ名をつけていたり、バスケやバレー、卓球、吹奏楽など、私たちと同じような部活動をしていました。また、ひめゆり学徒隊の方の持ち物も置いてあり、数学のノートは高学年のものなのでレベルは高かったですが、同じようなまとめ方をしていたり、メモ帳の表紙に流行りの絵をかいていたり、私たちと似た部分が多くて、同じ学生というものだったんだなと思いました。また、一人一人の写真や好きだったもの、プロフィールが書いてありました。一方で、男女で習う教科が違ったり、教科書に戦争のことについて書いてあったり、戦争に協力することは天皇・国に報いることだと教えられたり、「軍国少女」として育てていることの違いを見せつけられました。ほかのコーナーでは、ひめゆり学徒隊の体験談がのっていて、さっきまで隣にいた人が弾に当たり体の部位が吹っ飛んだり、解散を告げられ家族や仲間を見捨てたり、助けた患者がすぐに亡くなったり、傷に蛆がわいたり、当時の記憶、想いが細かに描かれていました。ここでは、戦争がどれだけ酷く、繰り返してはいけないものだということがより身近に感じられました。

【平和祈念資料館・平和祈念公園】

大体のことはひめゆりの塔・ひめゆり平和祈念資料館と同じでしたが、違ったことは、米軍に支配されていたころの沖縄について詳しく書かれていたことです。日本に沖縄が返還される前は、裁判も不公平で、アメリカ人に不利な判決は出ないようにしていたそうです。父がひき逃げされたのに、相手がアメリカ人だったので無罪になった体験談もありました。平和祈念公園では、「平和の火」という日本の三か所からとってきた火が何十年も灯され続けています。また、戦争で亡くなった方の名前が北から出身地別、名前順に記念碑に記されています。まだ見つかっていない方もいて、いまだに新しい名前が刻まれ続けています。戦

争の理不尽さ、遺体が帰ってこない遺族の方の気持ちを考えると、一層戦争をしてはいけないという気持ちが強まりました。

(第三中学校代表生徒)

今日、私が一番興味深かったことは、学徒隊として動員される前で米軍が沖縄に上陸する前の、学生たちの日常だ。ひめゆり学徒隊の戦時下での仕事に関しては、あらかじめ調べていたこともあり、知らないことはあまり多くなかったが、ひめゆり学徒隊が結成される前の、学校生活については、知らなかったことがたくさんあった。

映画「ああ、ひめゆりの塔」で、沖縄師範学校女子部生と沖縄県立第一高等女学校生が一緒に行動しているようだったので、そんなすぐに一緒に行動できるものだろうかと疑問に思っていたが、校舎、校歌、行事も一緒に行っていたということが分かり、合点がいった。

二校とも、運動場、体育館、沖縄で唯一の淡水プールなど、設備が整っていたことや、「先生が時々、文学、映画、社会情勢の話をしてくれた」、「先生をあだ名で呼んでいた」などの記述から、私たちと同じように、希望にあふれた楽しく、充実した学校生活を送っていたことが分かった。その後の彼女たちの悲劇を考えると、胸が痛んだ。

当時、日本では徹底した軍事教育を行っていたことを改めて展示を見て感じた。

- ・戦争に協力することは、国と天皇に報いることだと考えられていたこと
- ・御直影、教育勅語を神聖なものと捉え、最大級の敬意を払っていたこと
- ・祝日の行事に校長が教育勅語を読み上げたこと
- ・生徒たちは教育勅語を暗記していたこと

など、ここまで徹底した軍事教育をしていたのかと驚いた。

さらに、太平洋戦争が始まった1942年以降、音楽会では軍歌を歌うようになり、英語の授業がなくなったりしたようだ。英語は、敵国、アメリカ、イギリスの言語だったからである。

日本の言語を習得し、暗号を解読し、日本の住居を研究していたアメリカとは、かなりの違いがある。

この綺麗な沖縄に来て、東京では学べない沖縄の悲劇を、資料館に来て学ぶことができた。日常生活が突如として地獄になる戦争の悲惨さを改めて痛感させられた1日だった。

(第六中学校代表生徒)

朝からしっかり集まり予定通りに進めたことにひとまず安心しました。今日ひめゆりの塔と平和祈念公園に行き戦争の悲惨さや苦しさがとても分かり、動画などを見ていると心がグッと締め付けられるようなものばかりでした。

ひめゆりの塔では離れ離れになったひめゆり学徒隊の人たちの文章や学徒隊になる前を知り、戦争によって自分の将来をあきらめてしまうことが、悔しく感じました。

そしてもしも、太平洋戦争がなかったら、資料館の中庭に咲いていた、花々や白色の百合の花のように、輝かしく明るい未来があったかもしれないなら、余計心がつよくしめられました。

祈念公園は、実際に防空壕のようなものに入ってみて、これよりも汚く、臭く、銃弾や戦車などの音がすると考えると90日間（長くて終戦前後まで）ずっと耐え続けるのは、どれだけつらいかが身でも伝わりました。

今日知った悲惨さなどをしっかり伝えられるように、動画の要約や、写真を多くのせ、同じような気持ちになってもらえたらなと思います。

向こうのアンケートにも書いたことですが、今日生きて行くことができる、ビュッフェでおいしいご飯を食べられる、みんなと写真を撮る、明日に期待をもてることのありがたさを実感していきたいです。

明日からの二日間はうるま市の中学生との交流でまずはとても楽しみです。伊波中学校の皆さんとは平和特派員としてはもちろん九中としても交流があったので、先生や生徒には必ず感謝したいです。

また、バレーボールや、趣味などで文京区やうるま市の生徒と楽しく交流できればいいなと思います。

(第九中学校代表生徒)

一日目は4時50分に起床し忘れ物もないまま(今のところ)羽田空港へ向かい飛行機に乗りました。飛行機の中ではカメラやマップを使い外の景色を楽しむことができました。

昼食に食べたタコライスにはチリソースをかけていただきました。野菜と肉、お米のバランスがよくチリソースの辛さが相まってすごくおいしかったです。東京では食べる機会がないと思うため貴重な経験になりました。

昼食の後はひめゆりの塔・ひめゆり平和祈念資料館を見学しました。資料館ではひめゆりという名の意味や学年によって髪や服装が違うことなどたくさんの知らない情報を知ることができました。映像では実際に戦争を体験された方が当時を語っており、当時仲間とアメリカ軍からの攻撃から逃げていて、仲間

だけ攻撃によりなくなってしまった。その仲間の写真は今でも大切に保管していると語っていました。戦争体験者だからこそわかる本当の戦争の辛さを聞くことができました。

そのあとは沖縄県平和祈念資料館と平和祈念公園へ立ち寄りしました。平和祈念資料館では戦後の沖縄の問題について学ぶことができました。戦後の沖縄はアメリカ軍の物になっており国民により日本に返還され沖縄県となりその後もアメリカ軍の一部の人からの暴行や戦争の歴史があったから起きてしまったたくさん問題を知ることができました。

平和祈念公園ではテレビでしか見たことない歴史的な建物や石碑を実際に見ることができました。平和記念公園内の石碑では24万人の沖縄戦の戦没者の人の名前が一つずつ書かれており、その中にはおじいちゃんの名前も記載されており、死因は戦死とだけ伝えられていましたが沖縄戦で亡くなったのは初めて知りました。

レクリエーションではカフトで一番になることができ、沖縄についての理解を深め文京区のみんなとの交流にもなりました。今日は疲れたので明日の海洋体験やガマ見学、BBQなどのうるまの人たちの交流に備え早めに寝て体を休めます。

(第十中学校代表生徒)

【8月6日(水)】

海洋体験

海洋体験では、最初に、うるま市の中学生との顔合わせがありました。やっぱり、画面上でしか顔を見たことはなく、どんな人たちなのか、仲良くなれるのか正直不安でした。でも、最初にあったアイスブレイクの時、とってもフレンドリーに話しかけてくれた人がいました。私は、その人とシュノーケルや自由遊泳を通して、とても仲良くなれることができました。シュノーケリング体験では、沖縄の海のきれいさが印象に残りました。マスクのつけ方は難しかったけど、とっても楽しかったです。

自由遊泳では、最初、海でバレーボールをしました。うるま市の方々も混ぜて、全員でやりました。自分の友達がうるま市の方々と、とても仲良くなっていて、正直に尊敬しました。うるま市の方々はとってもフレンドリーで、初対面の自分にも笑顔で話しかけてくれました。愛想がいい人しかいなかったです。初めてかかわる人たちだけど、みんなと仲良くなりたいです。明日はエイサー体験があります。エイサーでも沖縄のことをうるま市の中学生の方々から色々聞いて、学びを深めていきたいです。そして、一日一日を大切に、この大切な機会を逃さずに、二日目も楽しんで、沖縄のことについて学び、交流を深

めたいです。この事業を大切な思い出にしていきたいです。

観光闘牛

観光闘牛では、最初の私の考えとしては、正直に言うと面白みや、闘牛から学べることがよくわかりませんでした。しかし、闘牛のことに関する映像や歴史を見て、そもそもの牛の種類や、角の種類、攻撃の仕方や技名など、自分の興味を引くものがほとんどでした。うるま市でしか許されていないこと、例えば、牛が一般道路を散歩することが日常であり、普通ということにとっても驚きました。闘牛を行っている都道府県合計で6県ということを知り、意外と少ないが、日本では、伝統的な文化を大切に、今も受け継がれていることを知りました。沖縄県での闘牛は、大人気であり、会場の2階席や階段まで人で埋まっている、ということに衝撃を受けました。実際に試合をしているところも見ることができました。事前に見た映像や闘牛のことについての情報が盛りだくさんのパンフレットで、私はとてもワクワクしていました。

第1回戦目、牛の中ではまだ体重も軽く、年も若い牛たちの試合でした。牛の入場は、とても威勢が良く、今にでも試合が始まりそうな気がしました。ついに試合がスタートした時、一気に押し合いました。意外とすぐ決着が付きないくらいに白熱していました。結果、白熱した試合であったため、引き分けで終了しました。その後は、事前決められていた審査員のほうで、決まりました。第1回戦も迫力満点でとても面白かったです。

第2回戦では、1回戦と違った、もっと年も取り、体重も多くなった牛同士の試合でした。牛が入場する際は、人間である私たちも見習いたいぐらい、堂々としていました。威勢のいい鳴き声や、落ち着き方はまさに、「貫禄」という感じがしました。それは2匹共通でした。試合が始まると、1回戦とは違い、相手の様子見から始まりました。しばらく、静かなまま様子見をしていると、ついに本気の試合が始まりました。この試合はすぐに決着がつかしました。一匹の牛がもう一匹の牛を押し出しました。写真を撮るために、砂埃がかかる位置に座っていたため、迫力満点だけど、結構な量がかかってきました。2つの試合を通して気になったことがあります。それは闘牛士さんの掛け声や牛に向けた指示出しです。牛によって違ったり、どの人も「絶対に勝つ!!」という思いが込められているような気がしました。どの闘牛士さんも共通して、気合が入った大きい声で牛たちを応援、補助、指示出しをしていて、かっこよかったです!!部活の応援もあれくらい大きくていいんじゃないかと思いました。

嘉手苺ヌチシヌジガマ

まず、ガマについたときの印象は「怖い」「行きたくない」という思いでした。私自身も、誰かにつかまっていなくて進めないほどでした。同じ班になっ

た友達が声をかけてくれて、不安が和らいだ気がしました。怖くても、学びのために行かなくちゃならない。と思い、勇気を出して行きました。ガイドさんの話だと、このガマでも、たくさんの人が避難して、たくさんのこと、空襲などを乗り越えてきたところだそうです。戦争がまだあった時代の避難場所に入るのは、やっぱり抵抗があり「嫌」でした。中に入ってみると、先入観のせいもあるが、空気が重く、どんよりした感じがしました。ここに、長くて半年間暮らしていたということを聞くと、不自由すぎる。それが正直な感想でした。この中に住んでいて、ガマの中で出産をした人もいたそうです。「全員相当辛かっただろうな」そう思いました。日本兵が、米兵が近づいてくる、ということ伝えに来てくれた日もあったそうです。日本人のやさしさは今でも、過去でも一緒でした。このガマは、人々を守ったガマとして観光地化されていました。今は明るく、整備もされているけど、戦中は、音やにおいなど不便で生活しづらいこともたくさんあったと思います。ガマで暮らしていた人々に尊敬の念を抱きました。それと同時に、日本兵の方々に感謝をしたいです。ここは「命をつなぐガマ」として、自分の学校の方々に還元していきたいです。

発表に向けて

明日は、初めての沖縄の人に向けての発表なので、自分自身とても緊張していますが、今まで沢山の時間をかけて調べてきたこと、やってきたこと、クイズなどを作ったり、工夫したことを存分に発揮していきたいです。発表のローテーションで、一人だけと話すことがないように、たくさんの人と話して、そこで会話が終わらずに、雑談なども混ぜてめっちゃめっちゃ仲良くしていきたいです。太平洋戦争中、東京に何が起こったか、そして、自分たちの平和に対する考えを、より詳しく説明していきたいです。うるま市の中学生の方々の発表を、メモをしながら聞いて、学びの幅を広げていきたいです。男女関係なく、みんなと仲良くしたいです。

(第十中学校代表生徒)

海洋体験

はじめのアイスブレイクで、うるま市の中学生とお互いに東京や沖縄のことについて話し合った。海が身近にあるせいで、逆に海にはあまり行かないというのが驚きだった。海洋体験では、初めてシュノーケリングをやった。関東の海とは違って透明度が高くきれいで、あまり見られないような魚やサンゴを見ることができ、とても貴重な経験になった。自由遊泳では、うるま市の中学生と一緒に球技をやったり、一緒に泳いだりした。はじめは緊張したが、自然と楽しくなり、並みに話せるくらいまでになった。明日の相互発表会でうるま市の中学生にわかりやすいように発表できるようにしたい。

観光闘牛

観光闘牛では、うるま市で有名な牛同士の闘いを見ることができた。うるまの観光資源を楽しむことができてよかった。学校のみんなは、沖縄の観光資源などをよく知らないと思うから、闘牛に絡めて説明したいと思った。

嘉手苜ヌチシヌジガマ

うるま市の職員の方の、「戦士が、米兵が来たときは川の水で手ぬぐいを濡らしなさい、といった後、米兵が来て、戦士が最後に避難したと思い、ガマに避難していた人々は救われた(戦士は亡くなられた)」というお話を聞いたとき、複雑な思いになった。避難していた人々は救われたが、日本兵は亡くなってしまったという現実を、学校のみんなにも詳しく説明したいと思った。ガマや鍾乳洞などを観光地化して当時の現実を伝えていくというのは良いと思った。

発表に向けて

これまで計8回+α積み上げてきたから、台本やパワーポイントの確認をしっかりとし、満足して終われるようにしたいと思った。個人的に、少し早口になってしまう癖があるから、相手の顔をうかがいながら、ゆっくり話すことを心がけたいと思った。

(文林中学校代表生徒)

・海洋体験

シュノーケル体験では、今までどういう仕組みなのだろうと疑問に思っていたシュノーケルについて、「あ、い、うの口で啜えて、斜め前を見る」という指導を意識して取り組み、途中からは余裕そうに海を見渡せるようになった。海自体に初めて入ったけれど、魚たちが悠々と泳ぐ姿がとても愛らしかったし、見つけられたときはとてもうれしかったので、緊張はほぐれていた。

自由遊泳のほうには、体調面を危惧し参加しなかったけれど、同じペアのうるま市の子と共通の話題で盛り上がり、仲も深められ、とても充実した時間を過ごせた。その子が「沖縄に住んでいると、徒歩五分の位置に海があるから、泳がなくていい。見るだけで十分!」「もう5年ぐらいは入らなくていい!」と言っていたのは、慣れや環境の違いとは面白いなと思った。そして、初出の感想はやはり「海のエメラルドグリーン、凄いきれい!」と思った。砂もふわふわさらさらで、いくらでも触れていられるなと思った。

・BBQ

うるま市の生徒は、「自分からわざわざやりに行くほどじゃないよ」と言っていたけれど、その割には焼く時の手際の良さがすごいなあと思った。しかし、文京区側も積極的に代わりに行こうとしており、私自身もあまりやってみようとしたことがないから、よい経験になった。焼き加減を見極めるのは難しい。

初対面かつ、食べるのに必死すぎたこともあって、あまり会話ができなかったのは少し残念だった（闘牛、ガマも同様）。明日は自分からもっと名乗って会話をふれるように努めたい。

・観光闘牛

これがなければ、見ようとは思わなかっただろう競技で、どんな感じなのかあまり想像できていなかったけれど、現役（2戦目）の牛たちは、静（様子見合い）と動（攻めるとき）がはっきりして、迫力満点だった。写真をとれたのも、貴重で大切な思い出になった。

だが、一番良いなと思ったのは、実況の方が、私たちをガンガン巻き込み、闘牛への興味を引き、対戦中の言葉選びは、説明なのに比喻がたくさん使われているところが、秀逸だなととても魅力を感じた。見た甲斐もあったけれど、聞いた甲斐もあった。

・嘉手苜ヌチシヌジガマ

ヌチ＝命、シヌジ＝しのいだ、という名前の由来を知ったとき、「そういえば、ヌチという表現を見たことがあったな」と、まるで英語の文章を初めて読んだ時のような感想を持った。

ガイドさんの解説を経て、たしかにこのガマでは死者が出なかったけれど、それは「その人たちを犠牲にしなかった二人の兵士がいたから」ということまでを忘れさせないように、今日これを知った私たちは、伝えていく必要があるだろうと感じた。

鍾乳洞ができるためにかかる年月を想像すれば、これだけのものができるのにどれだけかかったのだろうという、歴史の壮大さを感じられた。だからこそ、「観光地」としてのヌチシヌジガマだけでなく、「避難する人がいた」ヌチシヌジガマも、見てみたかった（もっと知りたかった）と思った。

・発表に向けて

「視線をあげての発表」という点としては、研修の際にもよかったといわれていたポイントの一つなので、緊張せずに、伝えていけるようにしたい。しかし、話す速さが速い、という課題点は、未だ自信がないので、ペアの人と空気を読みあいながら、ゆっくりかつ伝えたいキーワードをはっきりと話す意識で伝えていきたい。

これまでの8回の研修でお世話になったペアの人やアドバイスをくれた仲

間、そして教育指導課の皆さんがいたからこそ作り上げられたこの発表を、集大成として、自分の考えを自分の言葉で伝えていけるように頑張りたい！

また、聞く側としても、昨日今日で学んだ知識があるからこそ、そこを深堀してくださるので、しっかり意見をキャッチして、学校に還元していきたいと思った。

(本郷台中学校代表生徒)

海洋体験

東京都周辺の海よりも透明で色がグラデーションのようになっていてきれいでした。そして、海の周りには自然が多く東京ではあまり感じられない自然を感じることができました。

うるま市の学校の生徒たちとの対面では、笑顔で挨拶をしてくれて沖縄の人の温かさと親切さを一日目と今日の二日目で実感することができました。また、私はグループに分かれてのアイスブレイクでは沖縄の生徒と初めて話すことができ、沖縄と東京の違いについてたくさん知ることができて良い機会でした。私がうるま市の生徒との会話で驚いたことは、海に行く人が多いため保健体育の授業でクラゲがいる場合はお酢をかけて対処するなどということを経験で習っているということです。シュノーケリング体験では、私は初めてのシュノーケルではあったもののすぐに泳ぐことができ、海の中の魚を実際に自分の目で見るすることができて嬉しかったです。

BBQでは、うるま市の生徒の人たちが積極的に肉や野菜を焼いてくれていました。また、慣れた手つきで焼いていてすごいと思いました。

観光闘牛

テレビでは画面を通して闘牛を見たことがあったものの、実際には観たことがなかったため貴重な機会になりました。また、テレビで見るよりも迫力があり実況もあったため牛同士が戦う様子がわかりやすく楽しく観ることができました。

沖縄の伝統文化が現在でも続いてきていることに、闘牛を見て文化について触れて知ることができて良かったと思います。

嘉手苺ヌチシヌジガマ

ヌチシヌジガマの中は涼しく上から水滴が落ちていて湿っている場所でした。ヌチシヌジガマでは死者を出さなかったため「命をしのいだガマ」と言われたと知って、ガマにいた人との協力と助け合いがあったから死者を一人も出さなかったとガイドの方のガマでの暮らし方を聞いて自分で考えることができました。また、半年間もの間身をしのいだ人もいたことを知り生活をしていくことが辛く大変だったことがわかりました。

発表に向けて

詰まっているところが多いという指摘が多かったため、流れで覚えてスムーズに前を見て発表ができるように練習をしたいと思います。また、事前研修を無駄にしない発表にして、沖縄の生徒の人たちに伝わる発表をしたいと思います。

(音羽中学校代表生徒)

【8月7日（木）】

あまわりパーク

昔、日常生活で使っていた道具を手にとってみて調べました。

冷蔵庫は風が抜けやすいように仕込みされていて、熱が必要なアイロンは電気がまだないため、墨を使って熱くしていたことを初めて知りました。形が今と全然違うものもあれば、外見は似ているけど、仕組みが少し違うものもあって、道具の進化もわかって面白かったです。

勝連城の模型をみて思ったことは、高さをバラバラにするなどして、生活の仕方などを工夫していることがよくわかりました。また、世界遺産に登録されたことがわかる紙も飾ってあり、見てよかったですと思いました。

エイサー体験

とても難しかったです。パーランクーのたたき方やいい音を出すことがうまくできなくて、苦戦しました。基本の打ち方も完全に覚えていない中で、足の動きも加わって混乱しました。それでも具志川青年会のみなさんがとてもユーモアがあり明るく丁寧に優しく教えてくれたので、楽しく体験することができました。

平和交流

10分以上話せたー！！ミニ発表会の6分から12分まで2倍も話す時間が多くて、驚き、そしてうれしかったです。相手とも意見交流もできて、少し仲良くなることもできて、ブルーシールのおすすめ味も教えてもらって得るものがたくさんあった交流だったと思います。

うるま市の方は、平和について多く発表していて、「過去にあった歴史を知ることが平和の第一歩」というようなことも言っていて、似たような意見も出てきて、やはり大事なことなんだと再認識できました

講話

講話では難しい話が多く理解することは少しできなかったのですが、横尾さ

んの仕事に対する情熱がよく伝わりました。横尾さんはこの仕事が好きなのだな一と思いました。

また、まだ発掘できていないものがあるように、まだ知らないことも多くあると思うので、これで終わるのではなく、過去にあった戦争や世界で行っている紛争についてまた調べようと思います。

勝連城跡見学

階段がとても急で城に攻めてくる敵に攻撃しやすい工夫が歩いてみてわかりました。

佐久本さんの話で、グスクとは地形を利用し作った城のことを指していることを初めて知りました。発掘をしてわかったことも色々教えてくれて、城の構造を知られてとても楽しかったです。

(第八中学校代表生徒)

あまわりパーク

80年以上前の人が使っていた生活用具が見れた。大体は「文京区ふるさと歴史館」に変わらないと感じた。つるした籠を冷蔵庫として使っていたことが、沖縄の気候ならではの保存方法だと思った。戦後は資源がなく、砲弾や銃剣を溶かして、やかんを作っていた。歴史を説明してくれるガイドさんが展示品の説明するとき、目がキラキラしていたのが印象深かった。あまわりの歴史では、過去に琉球王国がどのように栄えたのかが展示されていた。歴史でも習う、「中継貿易」が、その国で行われていたことを改めて知り、点と点がつながった感覚がした。あまわりが歴史の中で民に慕われた善い人だったのか、逆臣で悪人だったのかいろんな意見があることを知った。勝連城の作りはとても興味深かった。日本の城と言え、戦のための消耗品」というものが多いが、勝連城には、人が住む家が堀の中に含まれていて、作りとしては、中国に似ていると思った。

エイサー体験

エイサーは、ご先祖をお迎えし、送る時におどる盆踊り的な立ち位置だった。踊ったことは、小学生の運動会で踊った時以来だった。仏教などの宗教とは違う、地元の人々の価値観が少しわかったような気がした。パーランクーの音は、軽く温かい印象だった。大太鼓の方を体験させていただいた。「基礎うち」と「下うち」の二つを組み合わせた簡単な踊りと聞いていたが、手と足の使い方が私には難しかった。大きくて重い太鼓を踊りながらたたくのは、とても大変だったが、達成感があって楽しかった。

平和交流

この交流会でとても驚いたことは、「平和」という定義が人によって様々だと

いうことだった。ある交流した人には「平和と言えば、平和→歴史→神話」の流れで、沖縄の神話について詳しく説明してくれた人がいた。今までペアの人と、協力して調べてきたことをうるま市の方に伝えられてよかった。平和の白い鳥は聖書に出てくるノアの箱舟の白い鳥がオリーブ若葉を啜って飛んできたことかららしい。沖縄の戦争や地元愛を歌った曲を紹介してもらった。私は「ダイナミック琉球」「島人の宝」「ハイサイおじさん」ぐらいしか知らなかったのも、HYというバンドの曲も聞いてみたい。自分の意見を断定することは出来なかったけど、自分が変われるような気づきをすることができた。日ごろから、何不自由なく暮らしていける喜びをかみしめながら、様々な知識と視点をみつけていきたい。

講話

琉球王国が衰退し、琉球藩として江戸時代を送っていたことは歴史で習った。江戸時代の琉球も、王国と同じ暮らしをしていたのか気になった。また大昔の沖縄県の島に、どのようなルーツで人が移住してきたのかも調べてみたい。沖縄戦では、住民を巻き込んだ大きな戦いで、石垣を切り崩して壁を作っていた。当時の人の工夫や考え方が現代に残されていて、出土品から、現代につながる地元の歴史を一つ一つ丁寧に推理していく人たちはとてもすてきだと思った。砂糖の工場の煙突には銃弾の弾痕が残っていると聞き、戦争の面影はまだ消えてないと知った。

勝連城見学

あまわりパークから少し歩いて、勝連城跡に行った。入ってすぐに広がる、段上の野原は、もともと畑があったところで、敵が城に攻めてきたなどの緊急時には、敵の足止めとして機能した。上りの階段がかなり急で、敵兵だったら攻めたくない城の特徴を持っていた。城に続く道は、堀に沿って作られていて、城の守備がしっかりできるように工夫されていた。階段の幅にも工夫がされていて、上に上がっていくにつれて幅が狭くなっていき、一斉に敵が来ないようにしていた。もともとあった山を削りながらグスクを作ることで、より頑丈なつくりになることを知った。自然の力を利用している城だった。一番上の「一の曲輪」には、神聖な御嶽があり、人々の信仰のよりどころになっていた。城のあちこちには、沖縄のさまざまな神様が祭られていた。後から知ったことだが、私たちが入ってきた方角は、城から見ると裏門になっていて、正門は海の方角にあるらしい。理由によると、海の方から貿易船が来るため、海の方が正門になったからだと言った。グスク＝城という認識はもしかしたら間違っているかもしれないという説明を聞き、まだ歴史のあきらかになっていない部分が多いことを知った。正門跡は時間外で見れなかった。東のクルワはまだ発掘中なので、ぜひまた来たい
(第九中学校代表生徒)

あまわりパーク

ここでは15世紀の琉球王国で勝連城の領主である阿麻和利の話について学びました。他にも、物を実際に触れることができてよかったです。

エイサー体験

この体験では服を着て、はちまきをまいて踊りました。先生に教えに来ていただきました。一番の踊りが踊れるようになりました。そこではうるま市の人たちも参加していたのでそこではエイサーのことについて教えてもらいました。

平和交流

ここでは8回の事前研修で調べたことを発表しました。練習の発表では時間が余ってしまっていたが本番ではしっかり話すことができよかったです。またうるま市からの発表もありました。うるま市の人たちも戦争について調べていました。ぼくたちとは違う視点で考えていたので新たな発見がありました。

講話

ここではあまわりパークを説明してくださった人からのお話でした。ここでは代表して講話についてのお礼を述べました。この後にあった勝連城跡のはなしと関連してくださったので次の話は分かりやすかったです。

勝連城跡見学

ここでは小さな丘にある城に上りました。井戸の話やお願いごとをする話などがありました。戦う時に必要な物があり戦いに適しているとわかりました。またうるま市の人との交流も今日で最後なのでしっかり話すことができよかったです。

(茗台中学校代表生徒)

あまわりパーク

あまわりパークでは展示物とともに職員さんの説明によって中継ぎ貿易などの説明や、動画などで勝連城また、かつての沖縄がどのようなものだったのか詳しくわかりました。また職員さん方が作った過去に使われていたもののレプリカなどがあり、あまり使用用途が想像できないものだったり、使われかただったり、見た目以上に重かったりなどしていて面白かったです。その中でも印象に残ったのは、今でいう冷蔵庫の役割をしていたもので網目状のかごで、天井につるして、風通しを良くしているもので電気がない時代で食品を長持ちさせる工夫がされていてすごいと思いました。

エイサー体験

エイサー体験では、テレビなどで少し見たことがあるだけだったので何も知らない状態で行いました。はじめはすぐにできるようになると思っていました

が、実際にやってみるとかなり難しく、沖縄で仲良くなった人も、やったことあるのと違い難しいと言っていました。手と足を別々だったらできますし、覚えることもできました。しかし合わせてやるととても難しく、結局あまりできませんでしたが、楽しくできたのでよかったと思います。

平和交流

平和交流では、初めのお昼ではお互いのことや、文京区とうるま市の違いなど様々なことを話しながら楽しくお昼を食べることができました。そのあとの発表では、事前研修でのミニ発表を休んでしまい出来なかったけれど前の日からこうしたほうが良いなどのアドバイスを大竹さんからもらっていたので少し変えました。一回目は少し不安要素があり実際にやってはいなかったが、少し間違えるところはあったがかなりできて二回目は一回目の反省を生かすことができたのでよかったです。この発表で驚いたことがあり、うるま市の人たちは、一人で作っているらしく、一人であの完成度なのはすごいと思いました。

講話

ここでの講話では、とても良い話が聞けましたその中でも、「発掘したものはウソをつかない」というのがとても心に残りました。インターネットが普及し始めて、誰でも簡単に情報手に入れることができる反面、嘘も多くなっています。そのため、「発掘したものはウソをつかない」その通りだと納得し、また、それも歴史の良さだと思いました。

勝連城跡見学

勝連城跡見学では初めて世界遺産に行きました。勝連城は想像以上に大きく高くできていて、井戸がいくつもあることや、高さで井戸がある利点を生かして難攻不落の城と呼ばれている理由もとても分かりました。

(茗台中学校代表生徒)

【8月8日（金）】

最終日はまず初めに糸数アブチラガマに行きました。

糸数アブチラガマは終戦までの約4カ月の間、住民の避難場所や軍隊の野戦病院として使われていた場所です。また、ひめゆり学徒隊もアブチラガマで働いていたそうです。

私が糸数アブチラガマに行って、一番心に残ったことは、立ち入り禁止エリアです。私は今まで野戦病院では、治療が充分でないとはいえ、全員が一度は手当を受けているのだと思いました。

しかし、現実では救いようのない人は誰も行かないガマの一番奥に放置されて暗闇の中、死を待つことしかできませんでした。私はこの話を聞いて、昔その

ようなことがあった事実を悔やむと共に、絶望感、心細い気持ち、怖い気持ちがこみ上げてきました。

また、一回懐中電灯のライトを五秒間消してみました。すると、隣にいる友達から周りの物が一切見えない暗闇になりました。この80年前に起きていた出来事を実際に自分が体験することで、戦争をしては絶対にいけないという気持ちや未来への責任が溢れだしました。

次に向かった所は国際通りです。平和特派員事業の締めである国際通りで、昼食に沖縄そばを食べ、買い物を楽しみました。

国際通りを歩いたり、買い物をして、沖縄の方々と関わると、より沖縄の雰囲気や文化を感じることができました。

また、特派員のメンバーとの絆もさらに深まったと思います。

平和特派員のみんなへ

始めて会った5月から8回にわたる事前研修、本番での事業で、いろいろなことに協力してくれたり、仲良くしてくれてありがとうございました。

夏休みの中の四日間でみんなと戦争について勉強したり、平和を呼び掛けたり、楽しむ時は全力で楽しませてくれてとてもうれしかったです。

夏休みが明けた後の学校での発表も体験したことを生かして頑張りましょう！

この平和特派員事業の思い出を絶対に忘れません。また、みんなと会えることを楽しみにしています。

改めて四日間本当にありがとうございました。

(第一中学校代表生徒)

糸数アブチラガマ

糸数アブチラガマの中は懐中電灯を消してみると横にいる友達も、周りも、何もかもがわからない状態になるぐらい暗い場所であった。また、空気口の周りは米軍に投げ込まれた爆弾などによって黒くなっていたり、爆弾の風圧で天井に物が刺さっていたりと、一つの爆弾でたくさんの人の命を奪っていたことが分かった。また、撤退命令が出された時動けない人などは仲間にも見捨てられていたことを知り、戦争の悲惨さを学んだ。また、ひめゆり学徒隊の生徒たちが兵隊さんたちの切断された腕や足を運んだり、排便などを外まで運んだりするなど今では想像もつかないぐらいつらいことをやっていたことを知った。切断などをしていると人は慣れてしまい精神的にもおかしくなり何とも思わないようになる怖さも同時に知った。他にもたくさんの人の命を助けた貴重な井戸では両足がない人が爆弾の風圧によって井戸の近くに飛ばされ水を待っている沢山の兵士たちに分け与えながら皆で生き延びたことを知り、自分が死にそうな状況

でも同じ仲間を助けてあげる優しさなどたった一つのガマで沢山のことを学ぶことができた。他にも、手術室、治療室は光が入ってくる空気口の近くにあったが、その分敵から狙われやすいなど危険と隣り合わせで手術などをしていたと考えると今の私たちでは考えられないほど命懸けであったと分かった。だからこそ、私達の当たり前はどれほど素晴らしいことなのかも考えることができた。

国際通り

国際通りは長い直線の道であったため、どのようなお店があるのか分かりやすい設計になっていたためいいなと思った。また、国際通りにドン・キホーテがあり、そこではちんすこうやもずく、シーサーがついたキーホルダーなど沖縄らしいものがたくさん並んでいて東京と沖縄で同じお店でも特産品などが沖縄はあるなどお店の違いにも気づける場所だった。

広場に集合する時間に遅刻しないようにしていたが最後時間ギリギリになってしまったが最終的には時間厳守で回ることができた。

平和特派員のみんなへ

うるま市の生徒の子たちへ

2日間本当にありがとうございました！伊計ビーチでうちわも持って手振りながら迎えてくれたのが本当に嬉しかったです。バーベキューのときずっと焼いてくれて本当に助かったし一緒に喋れて楽しかったです。平和交流の時間では沖縄戦について詳しく知れたし、本当の平和とはどのようなものなのかを知ることができました。2日間しか一緒にいれる機会がなかったけどその2日間が本当に貴重な経験にもなりました。最後バスの外から見送ってくれた時は別れたくないって思いが本当にあって泣きそうになりました。東京と沖縄だから遠いけど飛行機で3時間弱で行き来できるから機会があったら東京、文京区にも来てね！また、会える機会があるのを楽しみに待っています！本当に楽しかったです！

文京区の子たちへ

4日間本当にありがとう！事前研修ではペアの子としか喋る機会がなかったけど実際に沖縄に行った間は皆と喋れて一緒に笑って過ごしたり、いろいろなことを一緒に学べたりして本当に楽しかったしかけがえのない思い出になったよ。沖縄行く前日まで不安もあったけど行った後は本当に行ってよかったと思える4日間になったよ。事前研修も合わせると4ヶ月間一緒にいたはずだけど体感本当に短かったよ。全部皆のおかげだよ。ありがとう！

平和特派員20人全員がまた集まれる機会は中々ないかもしれないけど絶対に皆とまた会いたい！

(第六中学校代表生徒)

糸数アブチラガマ

とても悲惨で辛い出来事が沢山あったことがよく伝わる場所でした。ひめゆりの塔等を見た後だと更にイメージが膨らみました。ヌチシヌジガマはライトアップされていたり、全員助かったという話で、そのあとにこの糸数アブチラガマを見たのでギャップというか、落差が激しいと思いました。ただ、こんなに悲惨に感じるガマでさえも、数十人生き残っていることに、人間の強さの尊さを感じます。

悲惨な状況でも助け合って生き残った人がいるという事はとてもすごい事ですし、なにより糸数アブチラガマが現在でも大切に思われており、そこに行くと大量の千羽鶴があることが何かとても大切なことなんじゃないかなと思いました。

国際通り

とてもにぎわっており、楽しげな雰囲気でした。私もとても楽しかったです。戦争や平和についてからこの事業に興味を持ってもらうのも大切なことだと思いますが、こういうにぎわっている観光スポットのようなところから活動に興味を持ってもらうのもよいかないかと思いました。なぜなら、沖縄戦で起きた悲惨な出来事からここまで復興していることに強い興味を示してもらえないのではないかなと思ったからです。私は、目も当てられないような悲惨な出来事を学びましたが、そこからこのにぎわっていて平和と呼べる沖縄に復興したということに強い感情を得ました。更に、逆に言えばにぎわっているこの環境のみ知っている状況であるような出来事をすれば強い衝撃が持て、もっと知りたいと考えてくれるのではないかと思ったからです。

平和特派員のみんなへ

皆さんと学び、過ごせてよかったです。この事業に参加したことが私たちの未来にどのような変化、輝きをもたらすのかが今から楽しみで仕方ありません！欲をいうなら皆さんが現在何をしているかを知りたいです。沖縄の方々とはもしかしたらもう会えないかもしれません。ですが皆さんにだって文京区に住んではいますが、会うタイミングがなかったりすることだってあって、再会することがないことだってあるかもしれないのです。更に言うなら今回の事業のように一緒に三泊四日を過ごすことなんてそうそうありません。なので沖縄のことについて知れたのも私の大切に大事で貴重な思い出ですけど、皆さんと過ごせたのだから嬉しい思い出なのです。皆さんと出会えてよかったです。体調に気を付けてくださいね。それではまた。

(文林中学校代表生徒)

糸数アブチラガマ

糸数アブチラガマのアブは沖縄の方言で深い縦の洞穴という意味で、チラは大きく落ち込んだ崖、ガマは自然に出来た洞穴や窪みのことを表しています。アブチラガマは二日目に見学したヌチシヌジガマが舗装されていたのもあるけれど、狭く急に感じられました。初めは日本軍の地下陣地として使われていたのですが、戦争が激化していくうちに病院の分室となりました。実際に治療室や手術室を見たとき、こんなところで！？と思いました。床はゴツゴツしてあまり清潔とは言えない場所で、さらに攻撃が減る夜に手術を行うなど現在ではとても考えられない状況でした。途中、懐中電灯を消して暗闇を体験しました。たった数秒でも、何か凄いものが襲ってくる。そんな感じがしました。ここでずっと自分の死を待つとき、自分だったらどうなるだろう、どんな気持ちだったのだろうと考えてみたら自然と涙が出てきました。

助かる見込みのある兵士からしたら井戸の水の音や空気孔から入る光などが生きる希望でした。破傷風や脳症で奥の方に放置された兵士には光が届かないため、自分はまだ生きてると実感する方法が仲間の叫び声やうめき声を聞くことだけだったそうです。

糸数アブチラガマはこの四日間で一番印象に残っています。実際に来てお話を聞いてみて初めて、当時の過酷な環境について深く考え感じました。

ガイドの方のお話で心に残っているのは、「皆は今外の光を見たとき安心するといっていたけれどそれは今が平和だからこそ感じることで、あの時代は外に出ても爆撃に巻き込まれたり米軍に見つかったりする危険がありました。それが当時の当たり前です。」と、千羽鶴を奉納した際に「戦争は二度と繰り返してはいけません。戦争があった事実を忘れないために、ここにいる一人ひとりがこの話を誰かに伝えて後世に伝えていってほしいです。」と言っていたことです。

国際通り

一時間十分ととても短く、あっという間に時間が来てしまいました。事前にやりたいことや買いたいものを決めておけば、もっとたくさん場所を見られるなと思いました。かき氷やサターアングー、ブルーシールのアイスクリーム、沖縄らしいお土産などがたくさん並んでいて素敵な場所だなと思いました。とても楽しかったです。実際にうるま市の生徒からおすすめだよと聞いていたものはどこのお店に行っても販売していました。とても楽しかったです。

平和特派員のみんなへ

たったの四日間だったけれどたくさん話したり行動したり出来て、とっても楽しかったです。皆と仲良くなれたおかげで初めて会う、うるま市の生徒にも積極的に喋りかけることが出来ました！人としても、これから頑張る中学生としても、大切なことにたくさん気付けた時間でした。

本当にありがとう！！

平和特派員を成功させて、良い学びにするためにサポートして下さった先生方もありがとうございました。私はこの四日間で経験したことや学んだことを絶対に忘れずに、平和について考えることをやめません。

(本郷台中学校代表生徒)

【4日間を通した感想】

- ・本事業の「目的」はどの程度果たせたか

私はこの4日間を、「未来のために自分に何ができるか」を考えるきっかけにすること、そして、これまでよりもっと戦争を身近に感じて考えることを目的として参加しました。結果として、その目的はしっかり果たせたと思います。

事前研修ではまだ考えがぼんやりしていましたが、実際に現地で学ぶ中で、未来の平和のために自分ができることが少しずつ見えてきました。自分の中で考えがまとまったことで、個人的な目標は達成できたと思います。

ペアと一緒に取り組んできたスライドづくりでは、最初は時代(過去・現在・未来)の区切りをうまく活かせていませんでしたし、内容もペアに任せすぎていました。でも、3日目の本番では、相手の心に残るような発表ができたと思いますし、ペアともバランスよく協力できました。

特に私たちは「未来」を大切にしたいだったので、過去や現在に起きた戦争についてしっかり考えてもらいながら、「じゃあ自分たちはこれから何をすべきか?」という流れになるよう意識しました。その結果、時代の流れもうまく使うことができました。

- ・「目的」を果たせたのは、なぜか

もちろん自分なりに頑張りましたが、周りの支えがあったからこそ目的を達成できたと思います。特に、最初から最後まで一緒に行動してくれたペアの存在がとても大きかったです。わからないことがあったときにアドバイスをくれたり、一緒に考えてくれたりして、本当に助けられました。

また、これまでの自分の経験も大きかったと思います。私は何回か、家族と広島を訪れていて、何度見ても原爆ドームから目が離せません。祈念資料館には一度しか行ったことがありませんが、そのときの記憶はいまでもはっきり残っています。こうした経験があったからこそ、戦争についてもっと深く考えたい、という気持ちになれたし、今回の学びを自分の中にしっかり落とし込むことができました。

- ・今後どうしたいと思ったか

まずは、10月にある学校の学習発表会で、この4日間の学びをしっかり伝えたいです。スライドを工夫して、聞いてくれるみんなの心に届くような発表にしたいと思っています。そして、発表を通して、みんなと一緒に平和について考え

るきっかけにできたらいいなと思います。

今回の体験は、きっと一生忘れません。だからこそ、平和な未来をつくっていくために、自分にできることから始めていきたいです。たとえば、18歳になったら選挙にしっかり行って、自分が信じられる人を選ぶ。そういう一つひとつの行動が、実は平和にもつながっているんだということを忘れずに行動したいです。

・その他

この4日間、沖縄で本当にたくさんの方々を支えていただきました。お世話になった先生方、一緒に活動してくれた友達、うるま市の生徒の皆さん、ホテルのスタッフの方々など、多くの方の協力があったからこそ、安心して沖縄で生活し、学ぶことができたと思います。

今回の学びは、「戦争や平和について考えること」だけでなく、「感謝の気持ちをもつこと」の大切さも教えてくれました。関わってくれたすべての人に、心から感謝しています。本当にありがとうございました。

(第一中学校代表生徒)

・本事業の「目的」はどの程度果たせたか

今回の平和特派員事業には2つの目的があった。

まず1つ目の目的「世界の恒久平和と永遠の繁栄を願い、平和への確立に向けて努力する態度を養う」は、100%達成できたと思う。沖縄に実際に行くことで、戦争の恐ろしさ・私たちの日常の大切さ・平和というものがどのようなものかをより深く考えることが出来た。特にひめゆりの塔やひめゆり学徒隊が派遣され、悲惨な生活を送った糸数アブチラガマにいったことが大きく影響したと考えられた。私たちと年齢が変わらないような女の子がどれだけの思いを抱えたか、をインターネットだけでは決して知ることのできなかつた経験を通して、「世界の恒久平和へ」や「永遠の繁栄」に対する思いをより強くすることができた。また、平和に向けて私たちに何ができるのかをうるま市の生徒との交流をすることによって、再確認することができ学校や地域に還元する活動を頑張っていこうと思った。

そして2つ目の目的「うるま市の生徒等との交流、各施設の訪問、体験学習等を通して、沖縄県の歴史や文化に関する理解を深めるとともに、本区の歴史や文化を尊重する態度を養う」は80%ほど達成できたと思う。うるま市の生徒とうるまの伝統である・エイサー・闘牛・そしてきれいな海を通して仲を深め、沖縄の歴史や文化の理解を深めることが出来た。しかし、文京区についての理解を深められたかと振り返れば、戦争についても日本全体を中心に調べていたため、文京区の歴史についての理解を深められていなかったと感じた。そのため、事後学

習としてこれから文京区についての理解を深めたいと思った。

・「目的」を果たせたのは、何がよかったからなのか

「目的」を果たせたのは、事前学習に力を入れていたこと・うるま市のみんなと仲良くなりたいという強い思いがあったからこそだと思った。

平和特派員に決まった、4月下旬から太平洋戦争を体験した祖母に話を聞き、当時の資料（ビデオ等）を見せてもらいながら自分なりに戦争に対する思いや考えをもち、研修に参加できたことがよかったのではと思っている。他にも身内に話を聞くことで戦争が「過去」のことではなく、身近なものだとグッと感じ、より平和特派員への意欲を引き上げることができた。また、事前学習で沖縄の文化や伝統を調べていたかきがあり、うるまの生徒との交流に困ることがなかった。他にも、うるまのみんなに文京区について聞かれたことで、文京区の良さに気づくことが出来た。

平和特派員事業全体を通して、戦争について下調べをたくさん行ったことによって、戦争に対する考えを東京から見た視点・沖縄から見た視点と知ることができ、貴重な機会とすることが出来た。また、米軍基地についてどう思っているのか実際に現地的心声を聴き、五感で体験することによって意識が高まったと思う。

・今後どうしたいと思ったか

今後、まずは学校や地域の人に還元する「学習発表会」で平和特派員について・沖縄戦がどれほどのものだったのかを中心に発表しようと思った。文京区では、第二次世界大戦や東京大空襲についての学習を行うことが多々あるが、沖縄戦については一部の情報しか知ることが出来ていないと感じた。そのため、沖縄戦について多くの人に知ってほしいと思った。また、この貴重な機会・「平和特派員事業」に来年参加する一年生の意欲を掻き立てられるようにこの事業が学びもあり、楽しいこともたくさんあるということを感じられるような発表にしたいと思った。

「学習発表会」が終わった後でも、平和特派員・文京区代表という自覚を持ちながら、平和とは何か・平和になるためにどれほどのことが出来るのかと常に自分に自問自答しながら向き合っていきたいと思った。また、沖縄だけの問題にするのではなく私たち本州にいる人も「日本」として向き合っていくべき問題について知っていけるようにしていきたい。

・その他

まず、この貴重な「平和特派員事業」というものを最初から支えてくださった文京区教育委員会のみなさん、最初から最後までありがとうございました。

普段、沖縄に行くのは「平和」のためではなく「観光」のためでした。しかし、この「観光」というのも今日本は争いがなく「平和」といえるものだからだと改

めて考えることが出来ました。戦争について中学二年生という年齢でここまで充実した内容で学習し、理解を深められるのではないと思います。この貴重で未来につながるべき機会を今後の学習・大きく言えば世界の恒久平和のために生かせるよう精一杯頑張ります。

事前学習から約4か月、ありがとうございました。

(第三中学校代表生徒)

・本事業の「目的」はどの程度果たせたか

平和に関する学習と沖縄への実地研修を通して、「世界の恒久平和」と「永遠の繁栄」を願い、平和の確立に向けて努力する態度を養う目的について

本事業を通して、私は「世界の恒久平和」、そして「永遠の繁栄」を願い、平和の確立に向けて努力できたと思います。私は本事業に関わる前は、「戦争はやってはいけない」という意見しか持っていませんでしたが、平和に関する学習、および発表を通して、平和の尊さ、今自分がどれだけ幸せな生活を送っているか実感し、それを伝えて広めていかなければいけないと思いました。また、本事業を通して今自分の幸せな平和な生活を世界中の人がずっと過ごせたらいいなと思い、「私ができることはなにか、それをどう実行していけばよいか、どうしたらより多くの人に私の体験を伝えることができるか」を深く考えるきっかけとなりました。

うるま市の生徒等との交流、施設の訪問、体験学習等を通して沖縄県の歴史と文化に関する理解を深めるとともに本区の歴史や文化を尊重する態度を養う目的について

私は本事業の中で多くの施設に訪問し、貴重な体験をさせていただくことで、沖縄の歴史や文化、そして地上戦の事について多くの事を学びました。その目的は果たすことができたと思います。しかし、うるま市の生徒との交流については胸を張って目的を果たせたとはいえないと思いました。「もう少したくさん話しておけばよかったな、沖縄についてもっと質問して学びを深められたな」などうるま市の生徒との交流の際の後悔が残っているためです。私はもう、うるま市に平和特派員としていくことはできないので、「次はこうしたい」とは言えません。ですが、もし今後このような学びを深めることができる場があったらもっと積極的に行動し、少しでも多くコミュニケーションを取りたいと思います。

・「目的」を果たせたのは、何がよかったからなのか

「目的」を果たすことができたのは、事前学習や発表の際、戦争についての知識を深められたためだと私は思います。私は、本事業に関わる前は戦争について多くの知識を持っていなかったので沖縄県に行って体験学習や施設の訪問をしても今のように学びを深めることができなかつたと思います。

・今後どうしたいと思ったか

まずは学校での還元発表で、戦争や平和について「考える」きっかけをつくれればいいなと思います。私は本事業で戦争（地上戦）をしてしまうようになってしまったという気づきがあったので、その気づきを発表でより多くの人にわかってもらえるように努めたいと思います。その後についてはまだ理想ではありますが、私が所属している生徒会本部で話し合い、先生方と相談したうえで、募金などの学校でできることをできたらいいと思います。私は実際に戦争を体験したことはありませんが、高校生になっても大人になってもこの平和特派員事業という貴重な体験を忘れずにこれからも頑張りたいと思いました。

・その他

おこがましいようですが、来年度の参考になればと思い、いくつか提案をさせていただきます。

・持ち物の欄に「メモができるものを持ってくる」と記載した方がよいと思いました。

私は持参しましたが、しおりに直接メモを取っている人も多く、スペースが限られているため、還元発表の際に学校の人へ伝わりづらくなってしまったのはと感じました。

・フォームスのアンケートにも記載しましたが、うるま市の生徒との交流の時間がもっとあると良いなと感じました。交流を通してしか聞けない、うるま市の学校や生活について知ることは、とても貴重で勉強になると思います。

来年度の平和特派員事業が、さらに実りあるものになることを心より願っております。4日間、本当にありがとうございました。

(第八中学校代表生徒)

・本事業の「目的」はどの程度果たせたか

今回の平和特派員事業では、『世界の恒久平和と永遠の繁栄』というワードがよく出てきました。今まで両親や祖父母に戦争のことについて教えてもらう機会がありましたが、今回の事業では事前学習を通して東京であった出来事につ

いて調べてまとめ、実際に沖縄の地に行き沖縄戦の様子を学ぶことができたり、事前学習でインプットしたことをアウトプットするということをしました。最初どのようにまとめればうるま市の生徒さんたちへわかりやすく理解することができるのか、じつかりと昔あった事実を伝えるにはどのように資料をまとめ伝えればいいのかと試行錯誤していました。パワポを使っての発表だったのであまり文章を表示できないデメリットなどがありました。だからこそ画像などで伝えるためにはどのような工夫を施したらよいのかなども考えながらパワポづくりに取り組みました。そして本番、あまり緊張することなく時間もちょうどよく余ったので自分の意見を伝えたりすることができました。さらに平和について話し合う時にはグループの意見をまとめ発表しました。人の意見や思いのすれ違いの規模が大きくなると戦争のような争いごとが起きてしまうんだらうと思いました。また改めて平和について自分の意見をまとめることができました。そのほかにも沖縄戦の影が今でも残っている場所にたくさん行かせていただき、実際にその地を踏んで考えさせられました。生きたかったのに死ななければどうにもならないような状況、誰かを守るために盾となり亡くなった人々が沢山いた、そしてその話は遠い昔の話ではないと思うと胸が苦しくなる内容ばかりでした。しかし私たちが戦争があった過去を伝え続けるためには戦地に行き自分の体で感じるしかないと思いました。だからこそ得られるものがあると思うのです。『世界の恒久平和と永遠の繁栄』に対して私は貢献することができたのではないかと思います。また、うるま市の生徒との交流ではそこそこ話せたと思います。同じ中二ではあるものの、うるま市の生徒さんたちはコミュニケーションのとり方が上手く、同じ学年とは思えませんでした。しかし、うるま市の生徒さんのコミュニケーション力のおかげで話すことができました。とは言え、自分からとても積極的に話しかけることはできなかったもので、これからはもっとコミュニケーション力をつけていきたいです。

・「目的」を果たせたのは、何がよかったからなのか

事前学習を通してパワポ作りを丁寧に行うことができ、改めて文京区で戦中戦後に起こったことについて調べる時間が多かったので知識を深めることができたからだと思います。たくさん時間をかけることによってパワポ作りだけに時間をかけるのではなく、訪問する場所がどんなところなのかも事前に少し調べることができました。また事前学習の回数も多かったので、話し合いながら進めることができました。

・今後どうしたいと思ったか

今後は改めて平和について考えて、学習発表会では特派員としての成果を発揮できるように頑張りたいです。

(音羽中学校代表生徒)

(2) 学校での振り返りの記録

・ペアと私で、「一番伝えたいことは何か」「聞いてくれる人に何を考えてほしいか」を意識しながら、パワーポイントを作成しました。

4日間の中で学んだことや、自分の考え、伝えたいことがたくさんあり、最初は文字が多く、スライドも詰め込みすぎてしまい、発表時間内に収まりませんでした。

そこで、見る人にとって「わかりやすく、見やすい」発表になるよう工夫して作り直しました。特に工夫した点は、ただ話を聞いてもらうだけでなく、クイズや問いかけを取り入れながら発表したことです。そうすることで、聞くだけの発表よりも印象に残り、関心を持ってもらえるのではないかと考えました。

発表後には、友達や後輩、先生方から「とても見やすくよかった」という言葉をたくさんもらいました。また、ある後輩からは「私も戦争についてもっと学んでみたい」「平和特派員になりたい」と言ってもらい、とてもうれしかったです。

私が目標としていた「暴言をなくす」ということは、正直簡単ではありませんでしたが、今回の発表を通して、戦争について考えてくれる人は少しでも増えたのではないかと思います。

今後は、沖縄以外にも原子爆弾や特攻など、戦争に関する多くの悲劇があったことを学んでいきたいです。

そのためにも、学びを止めず、自分の考えを深めながら、「なぜ戦争が起こるのか」「どうすれば戦争を防げるのか」、そして「周りの人の意識をどう変えられるのか」を考えていきたいです。

(第一中学校代表生徒)

見ている人が見やすいよう写真やイラストを中心としたスライドを作成しました。終わった後いろんな人から良かったよと言ってもらい僕は役割を成し遂げられたなど実感しました。だけど、全体的に薄い色で作ってしまったため、見にくいところも多かったのかなと思います。また、緊張で嚙んでしまったところも多々あったが、自信をもって最後まで言い切れたのはよかったと思います。

九中の今の二年は来年度沖縄に行くため、行程を考えたり、事前学習の参考になったりしてくれたらいいなと思います。また、きっとひめゆりの塔や平和祈念公園などは行く可能性が高いと思うので、教わったことをみんなにくわしく教えられたらいいなと思います。

今回の発表で特派員の活動が終了となると実感がわきません。最初はオンラ

インで静かな雰囲気です。「この先長くなるな」と思っていたが今となるとあっという間の1年でした。

発表の最後にも言ったが、上野先生や藤咲さん、特派員の最高な仲間たちなど、すべての人に改めて感謝申し上げます。

約1年間ほんとうにありがとうございました。

(第九中学校代表生徒)

還元学習を終えて、十五分間という限られた時間の中ですべての思いや学んだことを伝えることの難しさを感じました。沖縄での四日間はひめゆり学徒や糸数アブチラガマの見学など、一つ一つの体験が重く、どれも沖縄でしかできない体験だったため内容をできるだけまとめて伝える工夫をしました。特にガマでの体験は実際に経験した時の思いを言語化するのがとても難しく、何も見えない恐怖や人が周りにいることだけが唯一の安心材料だということをお伝え、それに加えてその状況が長い時間続いていたという事実を含めて伝えることで、当時の人たちの精神的な負担の大きさを少しでも感じ取ってもらいたいと思ってお伝えしました。また、資料館で見た戦争経験者の記録の内容の一部をお発表することで、実際に戦争を経験した人がどう感じていたかということもお伝えされるよう工夫をしました。発表後にはそもそも沖縄戦をほとんど知らない人から驚きの声や、戦争についての興味を示してくれる人がおり私たちの発表が一部の人に届いたことに喜びを受けました。しかし学びを共有することの意義を実感した一方で、重い内容を正確に誠実に伝えることの難しさも改めて感じました。今回の経験を通じて、発表は学びを終わらせるものではなく、自分の理解を深める機会であると感じたので、今後も平和学習に積極的に参加し、またこのような機会を頂けるように活動を頑張っていきたいと思っております。そして今回の発表の反省として情報の伝え方の工夫をもっとできるようにし、より多くの人に私たちの思いをお伝えできるようにしていきたいです。

(第十中学校代表生徒)

沖縄での学習を伝えるにあたって、私は一つ大切にしたいと思ったことがあります。それは、沖縄について戦争などの悲惨な面だけではなく、沖縄の復興や豊かな自然などの現在の姿や、米軍基地との関わり方の問題などの未来のことについても知っていただきたいということです。確かに過去を知ることは大切ですが、現在の姿や未来に何をしていくかということを知り、考えなければ、平和についての進展は生まれ不会ではないかと考えたからです。私はそれを伝えるために、ある工夫をしました。それは、「最初に伝えたいこと」という項目を作り、最初に頭に入れてもらってから発表を聞いてもらう、ということでした。その項目では、「自分でも調べてほしい、周りの方にも伝えてほしい」という、平和をみんなで実現するために必要だと考えたことや、「マイナスな面だけを見ないでほしい」という、これから伝えることだけのイメージではなく、現在にも目を向けてほしいという思いを伝えました。また、発表にあたって課題になったことは二つあります。一つ目は、過去・現在・未来すべてに目を向けると、あまりにも長くなり、ごちゃごちゃしてしまうため、バランス良く伝えなければいけないということです。二つ目は、沖縄戦の悲惨さを学んだ通りに伝えたいけれども、あまりにも悲惨なところをありありと伝えてしまうのはどうなのかと悩んだことです。一つ目に関しては、先述した工夫や、しっかりと過去のことを伝えつつも、最後に闘牛など沖縄の素晴らしい伝統の写真を載せることによって、ある程度解決できました。二つ目については、実はまだ悩んでいます。確かにありのままを伝えることは大切ですが、やはりインパクトが強いため、私は具体的な情報を伏せて発表してしまいました。それでよかったのかは、今でも考えています。私の発表が1年生の皆さんの平和に団結する第一歩になればうれしいです。

(文林中学校代表生徒)

・パワーポイントの構成については、「できる限り平和について学んだことを多くする」という条件下で作成するにあたって、「前提知識がない人でも話についていける文章づくり」を目指した。もしも自分が何も知らない状態でこれを聞いたら、画像をみるだけで伝わるかなど、工夫できそうな部分はできる限り補足を入れておくように心がけた。

・話すときは言葉が聞き取りやすいようにはっきりと、話す際はできるだけ聞き手のほうを見る、ということは練習の初期から意識していたが、言葉に抑揚がない(単調に聞こえる)と指摘をいただいたため、本番では落ち着いていたり、いたたまれない内容では声のトーンを落としたり、重要な単語は少し強調して話したりした。

しかし、そこに意識が行き過ぎるあまり、台本を見切れず噛んでしまいがちだ

ったのは、聞き手にも悪かったかと反省した。

・「多くの文章に対して、スライドに動きがないと飽きてしまう」という、これまでの発表を見てきて感じた事を練習の時点で感じたため、アニメーションを加えたり、スライドを増やしたり、聞いてほしい人に聞かせる努力を怠らずに取り組めた。

・台本においてもスライドにおいても、相手とそれぞれで作っていたため、気になる点はとにかく質問や指摘をする姿勢をとった。事前研修のスライドでも、何度も何度もディスカッションしたことを思い出し、お互いに満足がいくように作成できたのではないかと思う。

・「学んできたことを知ってほしい」を表題としてはいたが、「発表だけでは終わってほしくない」という裏テーマを個人的に持っているので、次につなぐための展示を行うように計画した。ここで、どれだけの人が興味を持ってくれたのか、学ぼうと努めてくれるのか、目で見て確かめたいと思う。

・発表中の客席の様子は、思った数倍真剣に見ていてくれる人が多かったし、以前から「楽しみにしている」と言ってくれている友人に、「見たいものが見られた」と直接言ってもらえた。来年度も同じ取り組みがあったらば、どのような部分を工夫すべきかのアドバイスをできる立場（次の特派員へアドバイスできる先輩）でありたいと思った。

（本郷台中学校代表生徒）

まず、沖縄に実際に行き一番印象に残ったことが何かを考えました。印象に残ったものが私もペアもガマだったので、主にガマについて伝えようという流れになりました。

パワーポイントを作る際に、長文を載せずどのようにわかりやすく発表すれば、みんなにしっかりと伝わるのか、考えるのに苦戦しました。そこで私は、ガマについて説明するから私たちが行ったガマの雰囲気を経験してもらえば良いのではと考えました。そして先生に提案し、どうやったら体験してもらえるか熟考しました。最終的にあかりをすべて消し、水滴の落ちる音を流すような形にしました。

また先生たちのご提案に基づき、今年沖縄で行われた戦没者追悼式で朗読された「おばあちゃんの歌」を第二学年のボランティアの皆さんに朗読してもらいました。放課後にボランティアの皆さんと残って何度も練習をしました。最初はうまくタイミングが合わなかったり、文章が早くなってしまうことがありましたが、練習の回数を重ねていくうちにスムーズかつ聞き取りやすい朗読になっていきました。

私たちも発表の練習をするときにゆっくり話せているところもあれば早くな

ってしまうところがあったり、文の区切り方やイントネーションにとっても苦戦しました。

そして迎えた本番、少し緊張しましたがトラブルが起きることなく無事発表を行うことができました。

学習発表会終了後、友達やクラスの人に聞いてみると「スライドがわかりやすかった」と言ってもらえました。スライドにはとても苦戦したのでほめてもらえてとてもうれしかったです。

また、自分の両親や友達の家族の方にも「すごく聞き取りやすくてよかった」といわれてとてもうれしかったです。

事前学習から発表まで大変なこともありましたが、今回沢山のことを学ぶことができ平和にも貢献できたと思いました。

(音羽中学校代表生徒)

4 「文京区平和特派員事業」代表生徒アンケートの結果

1 アンケートの概要

対 象 「文京区平和特派員事業」代表生徒20名

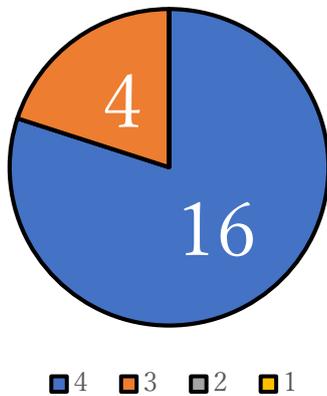
回答者数 20名

実施期間 令和7年8月21日～令和7年8月31日

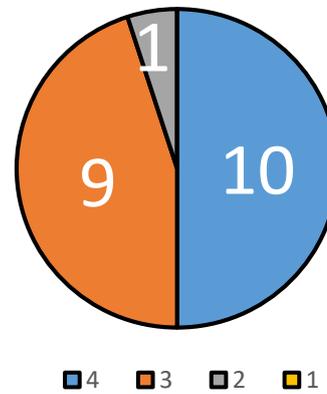
実施方法 代表生徒が web 上のアンケートフォームへアクセスし、回答を行った。

2 アンケートの結果

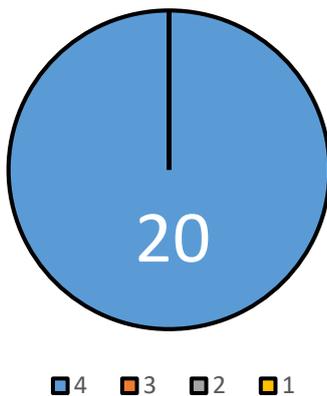
(1) 「ひめゆりの塔・資料館訪問」の満足度はどれくらいですか。
(満足度が高い順に 4-3-2-1)



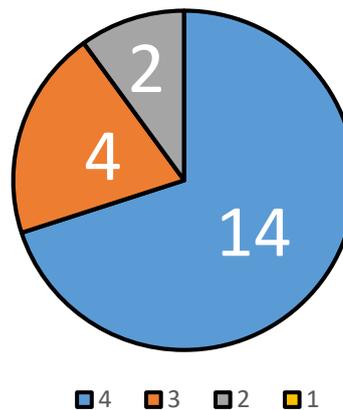
(2) 「平和祈念公園・平和祈念資料館訪問」の満足度はどれくらいですか。
(満足度が高い順に 4-3-2-1)



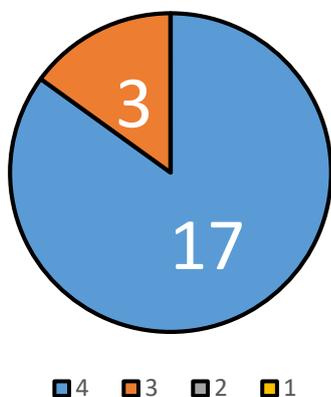
(3) 「海洋体験」の満足度はどれくらいですか。
(満足度が高い順に 4-3-2-1)



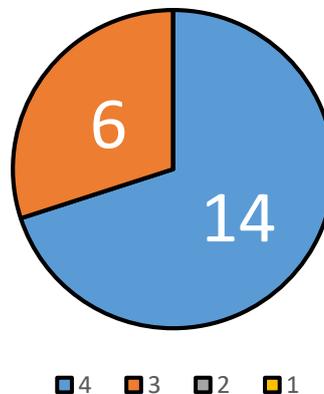
(4) 「バーベキュー」の満足度はどれくらいですか。
(満足度が高い順に 4-3-2-1)



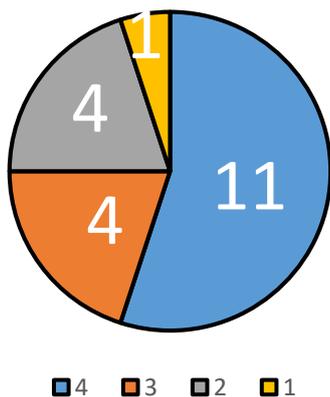
(5) 「観光闘牛」の満足度はどれくらいですか。
(満足度が高い順に 4-3-2-1)



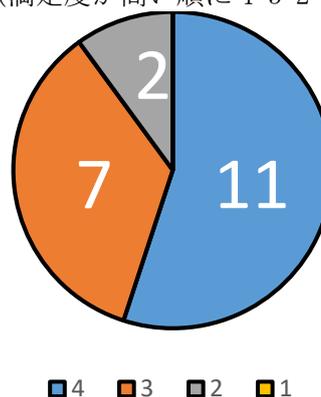
(6) 「嘉手苺ヌチシヌジガマの見学」の満足度はどれくらいですか。
(満足度が高い順に 4-3-2-1)



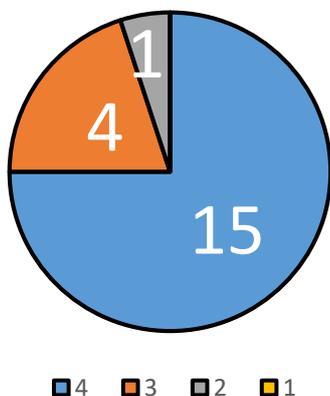
(7) 「エイサー体験」の満足度はどれくらいですか。
(満足度が高い順に 4-3-2-1)



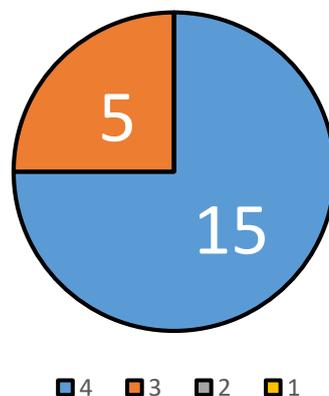
(8) 「うるま市社会教育部文化財課横尾さんによる講話」の満足度はどれくらいですか。
(満足度が高い順に 4-3-2-1)



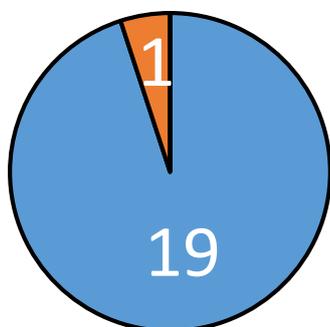
(9) 「平和交流 (スライド発表・意見交換)」の満足度はどれくらいですか。
(満足度が高い順に 4-3-2-1)



(10) 「勝連城跡の見学」の満足度はどれくらいですか。
(満足度が高い順に 4-3-2-1)

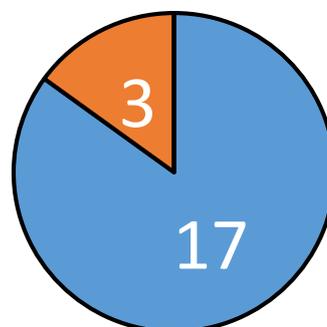


(11) 「糸数アブチラガマの見学」の満足度はどれくらいですか。
(満足度が高い順に 4-3-2-1)



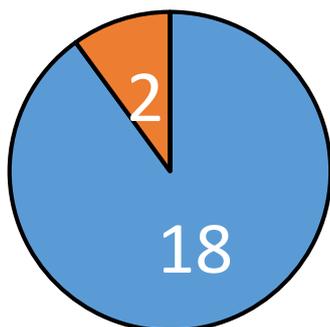
■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1

(12) 「国際通り散策」の満足度はどれくらいですか。
(満足度が高い順に 4-3-2-1)



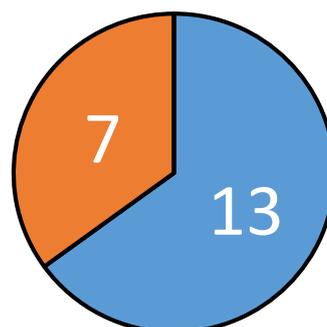
■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1

(13) 「宿舎での夜の活動（交流及び発表に向けた準備）」の満足度はどれくらいですか。
(満足度が高い順に 4-3-2-1)



■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1

(14) 事前研修の満足度はどれくらいですか。
(満足度が高い順に 4-3-2-1)

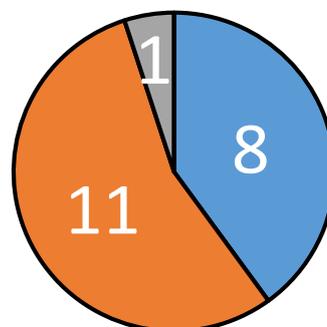


■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1

(15) 事前研修に必要な回数は何回だと思いますか。

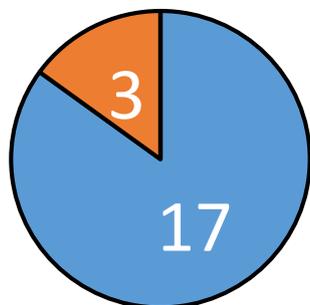


(15) 作成したスライドの満足度はどれくらいですか。
(満足度が高い順に 4-3-2-1)



■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1

(15) 平和特派員事業について、全体的な満足度はどれぐらいですか。
(満足度が高い順に 4-3-2-1)



■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1

5 あとがき

戦後80年の節目となる年に、2回目となる文京区平和特派員事業（沖縄県）を実施することができました。80年という月日は、およそ人の一生の長さに該当します。したがって、この日本で戦争を体験した方、当時の記憶が残っている方は年々少なくなってきました。そのような時に、地上戦のあった現地を訪れ平和について学ぶことができたことに大きな意義があります。

各校2名の代表者計20名は、高い志をもってこの派遣事業に臨み、事前学習として沖縄の歴史や文化を学習し、平和について各自で考えをまとめて沖縄に向かいました。現地では平和祈念公園やひめゆりの塔の資料館で知識を深めることができました。さらに、大戦中に防空壕や避難所として実際に使用されていた洞窟（ガマ）を二か所見学し、その場で起きていたことや過酷な状況を見聞きし、戦争に関して現地でしかわからない学びを得ることができました。

また、うるま市の中学生と沖縄の歴史や文化を一緒に学び・体験して交流を深めました。交流会の中で、事前に用意してきたことに加え今回学んだことをお互いに発表し合い、意見交換しました。平和についての多様な考えに触れ、様々な視点で物事を考える姿勢が多く見受けられました。現地での活動を通じて、平和の尊さと人々の絆を改めて確認することができた4日間となりました。

代表生徒は、今回の成果と学びを各学校で伝え、還元しています。今後は、昭和54年に宣言された文京区の平和宣言、「文京区は、世界の恒久平和と永遠の繁栄を願い、ここに平和宣言を行い、英知と友愛に基づく世界平和の実現を希望するとともに人類福祉の増進に努力する。」にあるような、平和の担い手や平和な社会をつくるリーダーとして成長し、活躍してくれることを期待しています。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えていただいた文京区教育委員会の皆様及び関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

令和8年2月

文京区立第十中学校長
南 英昭

発行・編集 文京区教育委員会
教育推進部教育指導課

〒112-8555 文京区春日一丁目 16 番 21 号

電話 03-5803-1300(直通)